

「にぎわい」

『アートでにぎわいをつくれるのか』という根本的な問題はありますが、会場に来てもらえるような仕組みや、会場の近くに来ている人を惹きつける魅力づくりと発信が、まずは大きいでしょう。一方で、展覧会やイベント開催時以外にも、中川運河の認知度を高めることによって、それが日常的なにぎわいにつながっていく可能性もあると思います。

「芸術性」

考えの方向性は興味深いですが、作品そのものの具体性があまり見えていないと、アートとしてどう評価すべきか、難しい問題です。今回は、そのように感じられた提案もありました。ですから、創造活動のコンテンツを可能な限りつめてきていただきたいと望みます。

「場を活かす」

中川運河のモチーフの使用、歴史の参照もあるでしょうし、中川運河だけがもつ場所性・空間性もまた魅力のひとつを考えられます。それらについてどこまでリアルなものとして受け止められているか、それは現地へ足を運ぶこと醸成される面が大きいですが、それが重要な評価点となりました。

「実現性」

アートを実現するためには、様々なサポートが必要になります。サポートは、物理的・経済的なものだけでなく、人的なつながりや手配も大きなウエイトを占めます。実現にむけて多角的に検討していただけるといいと思います。

「地域への根付き」

「シビックプライド」の考えが定着しつつあり、そうした活動も続いていると思います。ですが、それをどのように捉え、進めていくのかについては、まだまだ深めていく必要があります。私たちも考えていますし、みなさんからも具体性をもって提案してもらえると、この活動が地域により根付いていけると期待しています。